



緑地内で除伐・間伐された樹木をチップ化して道づくりに使用している



緑地内で開催されるグリーンコンサート



せせらぎには水生植物の生育に配慮して植栽樹が設置されている

DATA・BOARD①

- ①北海道札幌市北区新琴似～屯田
- ②幅員：30～65m，延長：2,150m，面積：105,000㎡
- ③JR札幌線新琴似駅から徒歩約15分，札幌自動車道札幌北ICから車で約10分
- ⑤小学校卒業生による巣箱かけ，小学生によるグリーンコンサート



1 ポプラ通中央緑地



「ポプラ通中央緑地」の位置する屯田防風保安林は、明治時代に屯田兵が札幌に入植した頃から、耕地防風保安林としての役割を担ってきた。この保安林周辺は、札幌市の発展と共に周囲の宅地化が進んでいったが、都市内に残された貴重な緑地空間として親しまれてきた。

その後、いくつかの課題が指摘され、地域住民から環境整備の要望も寄せられてきたことから、生き物との共存をめざす道づくりをテーマに整備が進められた。

整備にあたっては、保護ゾーン・保全ゾーン・活用ゾーン・水辺空間と、それぞれに目的を定めたゾーニングを行い、生き物が棲みやすい豊かな森、人々が憩うことのできる緑地空間の創出が図られた。また、緑地内を積極的に活用していくため、入口広場や芝生広場をはじめ、休憩所や散策路、照明、ベンチなどの施設を設置したほか、用水路跡に高度処理水を利用した水辺を再生した。周辺は、エゾリスの生息地でもあるため、緑地帯を結ぶ車道には、リスたちが安全に移動できるように橋も設置されている。

整備後は、市民の散策や憩いの場として親しまれており、地元の小学校が小鳥の巣箱を設置したり、野外コンサートを行うなど、野外学習の場としても活用されている。